

令和３年度学校評価における自己評価

真岡高校定時制

○ 本年度の重点目標及びその達成に向けた具体的な取組

<本年度の重点目標>

学校生活の様々な場面を通して、以下の８つの力を育成する。

- ①【傾聴力】 他者の意見を謙虚に聴く力を身につける。
- ②【分析力】 物事を客観的に分析する力を身につける。
- ③【思考力】 物事に対して、「何故か」を考える力を身につける。
- ④【発信力】 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える力を身につける。
- ⑤【想像力】 未来（結果）を考え、想像する力を身につける。
- ⑥【創造力】 課題を解決する方法を創造する力を身につける。
- ⑦【行動力】 自身の考えに基づき、他者と協力して行動する力を身につける。
- ⑧【自己肯定力】 達成感を積み重ねることで、自信をつける。

<評価項目（重点目標の達成に向けた具体的な取組）>

- ア 生徒の健全な成長を促す生徒指導・教育相談の充実
- イ 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善
- ウ 生徒の主体的な進路選択を促す進路指導・キャリア教育の充実
- エ 生徒の自己有用感や自己肯定感を高める特別活動等の充実・活性化
- オ 学校と家庭・保護者との連携・協力の強化

○ 自己評価

<評価項目（具体的な取組）について>

以下、数値(%)は学校評価アンケートの結果で、生は生徒、保は保護者、下線は直近３年間の最高値。

ア「生徒の健全な成長を促す生徒指導・教育相談の充実」について

月例の教育相談情報交換会を通して、生徒についての情報の把握と全職員での共有に努めた。また、年５回の個人面談や、日々の声かけ、相談等を通して、生徒の心のケアに努めるとともに、生徒が自己理解を深めて日常生活を改善したり、将来の目標を明確化したりできるよう指導、支援を行った。この結果、学校評価アンケートでは、「面談などをとおして生徒一人ひとりの理解に努めている(生95%)」、「生徒の質問や相談に親切に応じている(生93%)」など肯定的評価が多数を占めた。生徒は落ち着いた学校生活を送っており、問題行動等で指導する場面は極めて少ない状況であるが、正しい言葉遣いや時間厳守など社会に出てから必要となるマナーを身に付けさせるなど、今後とも生徒の健全な成長を促す指導・支援の充実に努めたい。

イ「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善」について

演習や確認テストの反復による基礎学力の定着、新聞等で身近な事象を取り上げるなどの教材の工夫、テーマについて話し合うグループワークや発表、作文、論述など自分の考えをまとめて表現する機会の導入、目標の設定や振り返りの機会の設定による学習意欲の向上、電子黒板等のＩＣＴの活用など、各教科において授業の改善、充実に努めた。この結果、学習指導については、「基礎学力向上のための取組を十分に行っている(生96%)」、「分かりやすい授業を行

っている(95%)」など肯定的評価が多数を占めた。多くの生徒は学習成績良好であり、放課後等に残って自習したり質問に来たりする生徒も見られた。今後とも生徒の興味関心を喚起しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善を図りたい。

ウ「生徒の主体的な進路選択を促す進路指導・キャリア教育の充実」について

外部講師による進路ガイダンスの複数回開催や会社訪問・学校見学の早期実施、ハローワークとの綿密な連携などを通して、進路目標の明確化を図るとともにミスマッチの防止に努めた。また、志望理由書や小論文、面接等の個別指導についても組織的、計画的に行うことができた。

この結果、進路指導については「指導を適切に行っている(生95%、保86%)」、「個別指導をよく行っている(生95%、保82%)」など、生徒、保護者の双方から肯定的評価を多く得られた。今後とも進路に関する情報提供や個別指導の充実を図るなど、生徒、保護者の期待に応える進路指導を行いたい。

エ「生徒の自己有用感や自己肯定感を高める特別活動等の充実・活性化」について

学校行事については、コロナ禍の中ではあったが、ICT活用による実施方法の工夫等により、ほぼ実施することができたため、「学校行事が充実している(生95%)」と肯定的評価を多く得られた。各行事や生徒会・委員会活動では、運営等の役割を分担して、できるだけ多くの生徒が活躍する場面を設けたほか、仲間とともに計画を立てたり活動を振り返ったりする機会も設けられた。生徒会役員に立候補する生徒が複数現れるなど、主体的、積極的な参加も見られた。

一方、部活動については、新型コロナの影響もあって加入者が減少し、定通総体には参加することができなかったため、「生徒会活動や部活動が活発である」の項目については、否定的評価(29%)も目立った。しかし、その後、部活動の実施時間帯を工夫したり、新たな部員を勧誘したりすることで、少しずつ加入者が回復し、秋季大会には参加することができた。

オ「学校と家庭・保護者との連携・協力の強化」について

P T A総会や夏季休業中の保護者面談などを通して、生徒への指導・支援について保護者との共通理解を図るとともに、学校だよりなどを通して、分かりやすい情報発信に努めた。この結果、「面談などをとおして生徒一人ひとりの理解に努めている(保89%)」、「配布物などで学校の情報を積極的に発信している(保82%)」と肯定的評価を多く得られた。一方、「教育方針や努力点などを保護者に分かりやすく伝えている」、「保護者の質問や相談に親切に応じている」の項目については、ともに否定的評価(11%)もある程度見られることから、さらに保護者との連携・協力を深めるとともに、情報発信の工夫に努めたい。

<本年度の重点目標について>

本年度は、上記5つの具体的な取組を中心に様々な教育活動を通して、8つの力の育成に取り組んできたところであり、生徒による差はあるものの、一人一人の生徒に様々な成長が見られた。本校定時制に対する評価も「入学して良かった(生96%)」、「入学させて良かった(保98%)」と肯定的評価を多く得られた。「生徒が自立できるよう人間的成長を促す取り組みに力を注いでいる(生89%、保77%)」の項目への肯定的評価がさらに多くなるよう、今後とも、生徒一人一人に目をかけ、手をかけ、心をかける指導に努めていきたい。